

## 1 第2章(3)経済・活力

(全体)

- 未来に向け、持続可能な都市であるためには、経済の低成長が見込まれる中で、工夫をしながら足腰の強い経済基盤（税収確保）とまちの活力を維持し、人を呼び込むことが不可欠。
- よって、特に、人を呼び込む（商業／交流）【施策 1～3】、魅力的な産業の育成（産業／工業）【施策 4】、農業の強化【施策 5】の3つを優先。

(商業／交流)

- 人口のパイ（消費者）が縮小し少子・高齢化が進む中では、柏の顔である中心市街地に頼り切るのは難しく、別の切り口で柏に人が集まる仕掛けをもっておかなければならない。土地利用でも示した北・中・南部の拠点化という観点で、何が重要なのかを考え、各拠点で重視されるべき取組を抽出。各地域の拠点が盛り上がることによって、そのシャワー効果のような形で、市内各地域にも好影響をもたらすものと考え、拠点への投資を優先。
- 別の切り口とは買い物・レジャー的な観点もあるが、働く場や学ぶ場などの視点で人が集まるという観点もある。それを北部や南部といった市全域で考えていく必要がある。
- 柏の顔である中心市街地は、将来を見据えると人口のパイが縮小し、量的な維持は難しいかもしれないが、街のあり様は現在の姿を維持することは難しいかもしれないが、あり様が変化しても活力（交流）は維持されている状態でなければいけない。そういう意味で最重要であり、市民が共有していかなければならない。
- 流行り廃りのスピードは速く、吸引力の低下・店舗の撤退への対策が遅れないよう、まずは危機感、将来のビジョンを共有した上で、一過性に過ぎない短期的対策よりも、将来的な人口減少や少子高齢化等の重点課題も踏まえ、長期の視点に立った本質的な対策を優先していくこと（取組や事業選択）が重要だが、短期で答えを出すことは難しく、長期的な目標が必要。
- 例えば、基本構想の重点目標①にもある「親子が楽しめるうるおいのある生活環境」をつくる、また高齢者が一層増えていく将来を見据えると、誰にも快適で優しい都市空間作りがより求められる。
- 中心市街地における交通機能の強化はとても重要ではあるが、行政は交通機関への働きかけを行っていくことがメインになるため、現状の何かに追加投資して成果を出すようなものではないと想定。
- 中心市街地の活性化につながるキラーコンテンツのような仕掛けとして、例えばアリーナ設置等の案も考えられるが、将来的に本当にニーズがあるかどうか等を議論・研究していく必要があり、検討していく位置づけとした。
- 北部は、新しいまちをつくっている成長過程にある中で、いかにビジョンを共有できる人や企業を集められるかという視点で優先順位を検討。地域が同じビジョンを描いてまちづくりを進めるために、まちづくりにかかわる公・民・学がまず同じビジョンを描き、ビジョンを具現化（ブランド化）していくことが最も重要。

- 南部は、柏駅や柏の葉キャンパス駅周辺のような利便性や人を呼び込む機能に乏しい一方、手賀沼という自然あふれる地域資源があり、また農とのつながりもあることから、手賀沼を活用した取組を進めることで、来街者の増加も期待でき、南部地域及び全域の活性化につながることを期待できる。

#### (産業／工業)

- 雇用は社会的課題、また地域課題でもあり、昼間人口の拡大にもつながり、経済的にも効果が大きいものであるが、魅力的な企業や産業がもっと育たないと、インパクトのある雇用の受け皿はできない。時間軸で考えた場合、受け皿部分の拡大を優先したい。
- 企業誘致については、何でも来てもらえたらいいというものではなく、税収効果や市民の雇用の場など、様々なメリットをもたらす付加価値の高い企業を呼び込む必要がある。

#### (農業)

- 農業は担い手不足、高齢化など様々な課題を抱えているが、そもそも農業が、仕事として魅力的か・稼ぐことができるのか、というような前提が崩れていると、様々な取組みの意味がなくなってしまう。よって、経営力・魅力の向上が最も重要。
- 農業は「食」を支える人の生命にも大変つながりが深く、景観や環境面における影響の大きい分野でもあるが、柏市の経済規模で見た場合、商業・製造業と比較すると小さい。よって、柏の農業は地域経済を牽引する存在というよりも、地域経済をつなげていく存在として、例えば6次産業化や商業・製造業との連携などがより重要な取組みになっていくのではないかと。

## 2 第2章(4)地域のちから

#### (全体)

- 本市の財産である市民が、主体的・積極的に活動することや、柏の魅力を再認識することなどを通じて、自分の住む地域に関心を持ち、柏を好きだと思えるようにする。また、対外的に評価されることでも、地域に対する誇りを持てるようにする。
- 具体的には、まずはコミュニティの再構築【施策 1】、その他の活動として文化【施策 2】やスポーツ【施策 3】活動の3つが、特に優先される。

#### (コミュニティ)

- 防災・防犯、子育て、高齢者福祉など、増大・多様化する地域課題に対応するためには、行政だけではなく、地域のことをよく知る市民が主体的に地域の身近な課題解決に取り組むことが必要となっている。しかし、市内の地域組織(町会・自治会・区等及びふるさと協議会など)は会員加入率の減少や担い手の不足等の課題が発生していることから、地域で何かをしたいと考える人材を発掘・育成し、その人が地域の中心的な担い手となり、人のつながりが生まれることで、お決まりの人ばかりではなく新しい人が参画すること等により、地域活動が活性化していくのではないかと。

- 地域における自主的な活動が衰退すれば、コミュニティが育まれる状況は無くなる。積極的に活動をしていきたいと考える地域には、行政として積極的に支援していく必要がある。

#### (文化)

- 柏市には、多くの文化・芸術活動に取り組む市民がいるが、市内外の人にとって、柏への文化的イメージは低い。
- 全国的に文化・芸術活動によるまちづくりが行われている中においては、他市と同様の、様々な文化・芸術活動に薄く・満遍なく取り組むのでは差別化を図れないことから、柏の強みである吹奏楽を磨き上げ、市内外への評価が上がり、柏に対する誇りも高まることにより、他の様々な文化・芸術活動にも好影響を与え、柏の文化的イメージが向上していくのではないか。

#### (スポーツ)

- 柏は、Jリーグの「柏レイソル」をはじめ、バスケットボールや陸上などのスポーツチームが多数あり、流通経済大学附属柏高校や柏日体高校など全国レベルのスポーツ大会で活躍する高校も存在していて、スポーツ資源は豊富。
- スポーツは「する・みる・ささえる」の切り口がある。この中で、将来の重点課題であり目標でもある「健康寿命」を意識すると、最も「する」が重要だと考えるが、実施率（週に1回以上スポーツをする人の割合）を見ると55.8%にとどまり、国が目標とする65%に至っていない。スポーツを楽しむきっかけとなるような機会や場をより充実させることで、体を動かす習慣をつけ、実施率を高める必要がある。
- 但し、もっと運動する場所を増やす＝公共施設を増やすという考え方は、公共施設の老朽化対策等、全体最適の視点での検討が必要なことから、ハード面よりソフト面でのアプローチがより優先される。